

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	子宮脱整復・ペッサリー自己着脱技術を獲得するための “子宮脱モデル” および患者教育プログラムの開発				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	荒井 孝子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	福島 恭子
		所属・職名	菜桜助産所・院長	氏名	堀田 久美
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	荒井 孝子

講演題目	子宮脱整復・ペッサリー自己着脱技術を獲得するための“子宮脱モデル”の開発
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>骨盤内臓器脱（膣脱・子宮脱）は、子宮が正常の位置よりも下方に落ち込んだ状態で、下降に伴って膣の下垂・脱出が合併する。発症要因としては、出産による骨盤の支持靭帯へのダメージやホルモン減少による靭帯や筋の弛緩が原因とされている。症状が進み、子宮脱の分類（POP-Q分類）Stage IV度となると膣から2 cm以上脱出するため、子宮膣部は外的刺激により潰瘍状を呈し、出血や痛みを伴うようになると歩行困難、尿失禁などにより女性の日常生活動作（QOL）を低下させ、健康生活を妨げる一因となっている。「ペッサリーの挿入」の自己着脱法は、患者自身が子宮脱の自己整復を行い、膣内にペッサリーを挿入することで子宮脱の予防と症状緩和を図る方法である。そのため、患者自身によるペッサリー挿入と抜去の技術を獲得するためのトレーニングが必要であるにも関わらず、教育訓練・指導用に適切なシミュレータは皆無である。そこで、本研究では、子宮脱モデルの開発および臨床的意義について検討することを目的とした。</p> <p>患者自身による子宮脱整復及びペッサリー着脱法獲得のための子宮脱モデルの開発については、患者が自身の病態について構造的に理解でき、自分で子宮脱を整復する方法、ペッサリーを着脱する方法の理解を促し実技をトレーニングするためのシミュレータ開発を行った。「子宮脱モデル」は、機能解剖学的にも子宮脱と整復を可能とするモデルであり、治療法であるペッサリーの着脱も可能なモデルである。材料の質感、形状、重さ、安定感の検討とともにペッサリー挿入時の膣の進展性について改善した。また、作成したモデルを用いて共同研究者が所属する外来においてパイロットスタディを実施する予定であったが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令等により、産褥婦がいる外来への出入りが困難となったため、本モデルを有効に活用できるための小冊子について作成しているところである。使用の対象者が医療関係者のみならずペッサリーを自己挿入する患者自身であることを鑑み、手順を理解し、練習を促す教材としても小冊子の作成は有用である。</p> <p>モデルの完成を鑑み、今後、看護師等への教育プログラムの作成と評価について、引き続き検討し、悩んでいる女性の健康生活へ広く役立てていきたい。</p>